

# 未来都市創造に関する特別委員会 市民報告会 記録

日 時：令和7年5月22日（木）午後6時0分～午後7時28分

場 所：市会本会議場

出席者：未来都市創造に関する特別委員会委員（欠は欠席委員）

委員長 門 田 まゆみ

副委員長 大井 としひろ

理 事 山下 てんせい 吉 田 謙 治 前 田 あきら 木戸 さだかず

委 員 原 直 樹 岩 佐 けんや 香 川 真 二 大 野 陽 平

三木しんじろう 大かわら 鈴子 よこはた 和幸 平 井 真千子

欠坊 池 正

## 議 事

(午後 6 時 0 分開会)

○**理事** (吉田謙治) ただいまから神戸市会未来都市創造に関する特別委員会の市民報告会を開催させていただきます。

まずもって本日は皆様にお越しをいただきまして誠にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます当委員会の理事の 1 人でございます吉田謙治と申します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

まず開会に先立ちまして、御来場の皆様にお願いが少しございます。本日の会議中は報道機関や市会事務局を除きまして、写真撮影やビデオ撮りはできませんので御注意をお願いをいたします。なお、本日の報告会の模様はインターネットで配信されます。録画もされますので御留意ください。

携帯電話は電源をお切りになるか、マナーモードに設定をお願いをいたします。会場内では飲食及び喫煙は禁止でございます。

また、皆様の今日議場のほうにおかけをいただいている方々がどうございますけれども、黒い名前の立札が横に寝てるかと思いますが、それには手をお触れにならないようお願いをいたします。

本日は議場での開催ということでございまして、初めてこちらに来られる方もおられると思いますので、簡単に議場の説明をさせていただきたいと思います。

今皆様方がお座りになってところは、今申し上げましたように議員の議席でございます。

それから皆様から向かいまして左側——私が立っているほうでありますけれども、こちら側はふだん真ん中から市長、副市長が座っております——局長などが座っております席でございます。それから向かって右側のほうは、教育長とか選挙管理委員長、人事委員会の委員長等、いわゆる独立行政機関と呼ばれておりまして市長とは別でございますので、右のほうのいわゆるひな壇に座っております。

本日はそれぞれ最前列に当委員会の正副委員長、理事はじめ15名の委員が着席をさせていただいております。なお、坊池委員がいらっしゃるんですが、病氣療養のため本日は欠席されておられます。

それでは本日のスケジュールを説明させていただきます。

まず、委員会活動報告として令和 6 年度の当委員会の活動について御説明申し上げた後、御来場の皆様から事前に頂戴いたしました御質問を中心にお答えをしていきたいと存じます。終了予定時刻は19時半を予定をいたしております。

それではまず初めに、当委員会の委員長、門田まゆみより御挨拶を申し上げたいと思います。

門田委員長、よろしくお願いいたします。

○**委員長** (門田まゆみ) 皆様こんばんは。ただいま御紹介にあずかりました未来都市創造に関する特別委員会の委員長を拝命しております門田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、またしかも平日の午後 6 時という遅い時間にもかかわりませず、この市民報告会にお越しいただきまして心より感謝申し上げます。

私たちの委員会は、平成26年 5 月に議会の立場から神戸の未来に向けた独自の調査や政策提案を行うことを目的に設置され、自由な発想を大切にしながら活動を続けてまいりました。

今年度は人口流出や少子化といった課題と向き合う中で、「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」をテーマに決めさせていただきました。

個別の報告につきましては、この後、各理事から行わせていただきますが、今年度は企画調整局との意見交換や、フィールドワークといった新しい取組にも挑戦いたしました。現場で直接市民の皆様の声を伺うことで、日頃の議論では得られない気づきや思いを受け取り、本日出席している委員の皆さんと共に活発な議論を交わすことができました。

とりわけフィールドワークにおいて、過去にこういった対話があったからこそ、その中で意見を出してもらった恩恵を今たくさん受けているのだと思うとか、直接話ができてうれしいという温かいお言葉をいただいたことは私たちにとって大きな励みとなりましたし、改めて私たち議員としての原点を見直す機会ともなりました。

本日は短い時間ではありますが、この報告会が市民の皆様と議会との橋渡しとなり、これからの神戸について共に考えるきっかけになれば幸いです。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

○理事（吉田謙治） 委員長の御挨拶終わりました。

それでは委員会活動報告に入らせていただきます。

令和6年度の委員会活動について、当委員会の副委員長でございます大井としひろより、委員会活動の調査テーマ——今委員長からもお話がありました企画調整局との意見交換について御説明を申し上げたいと思います。

大井副委員長、よろしくお願いいたします。

○副委員長（大井としひろ） こんにちは。本日はお忙しい中、未来都市創造に関する特別委員会の市民報告会に御来場いただきまして、誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げたいと思います。

私は今期、未来都市創造に関する特別委員会の副委員長を務めます大井としひろと申します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

本委員会は、平成26年度に設置されて以来、新たな時代の神戸のまちづくりを目指し、専門的な知見を生かして調査・議論を重ね、市長への提言を行ってまいりました。今期、当特別委員会では、神戸が将来にわたって魅力あふれる都市として輝き、発展し続けるための方策を探るべく人口減少社会を見据えた新たな時代の神戸のまちづくりに関する必要な事項について調査を進めることといたしました。

今期、特に委員長と私の選挙区でもあります須磨区は、10年前に消滅可能性都市として名指しされ、2010年から30年間で20歳から39歳の女性の人口が50%以上半減する自治体として指摘された地域でもございまして、少子・高齢化、若年層の転出、空き家の増加といった急速な人口減少の進行に対し、強い危機感を抱いております。

そこで、今期は人口減少が進む社会の中で神戸が今後も魅力的で発展し続ける都市であるために、「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」を調査テーマとし、踏み込んだ議論を行うことを委員会の運営方針といたしました。

また、既存の各種データを活用しつつ、関係当局との意見交換を実施し、今回は企画調整局と、令和4年度に実施されました大学生アンケートの分析結果や、子育て世帯のライフステージに応じた家計支出調査などのデータを基に子育て世帯のニーズや居住地選択の要因分析についても意見交換を行いました。

また、子育て支援策として、学校給食費の無償化や他都市における子育て世帯優遇策の効果の検討を通じて、神戸市の支援策のさらなる充実を議論いたしました。

雇用政策の面では、企業誘致等を通じた子育て世帯の就業環境の改善について、また住宅政策では、人口維持に資する住宅供給の在り方についての検討状況を確認いたしました。今回の取組では、神戸市会として初めて当局が提案する政策をただ検証するだけでなく、議会として独自に政策提言を行うことを目指し、意見交換を行った点が大きな特徴でもございます。

さらに、今回は本市の担当部局からの説明を聞くだけでなく、委員自らが現場に足を運びまして、市内の子育て支援施設や住宅地を訪問するフィールドワークを実施いたしました。住民の皆さんや関係者の皆様の生の声を直接お伺いし、政策づくりに生かすことができたと思っております。

委員会では、以下の3つのグループに分かれて調査を行いました。

Aグループは将来の子育て世帯、高校生や大学生の皆さんから、Bグループは雇用の観点から市内企業・事業者の方々から、Cグループは現在子育て中の保護者の皆様方とアンケートやヒアリングを通じて結婚・出産・子育てに対する若者の意識や育児と仕事の両立に関する雇用側・被雇用側双方の意見など多くの御意見を伺うことができました。

本日はこのような現地調査、意見交換の成果について御報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたしまして、私からの報告は終わります。どうぞよろしくお願いいたします。

○理事（吉田謙治） 副委員長の御報告は終わりました。

それでは今御紹介のございましたA・B・C、各グループから報告をさせていただきたいと思えます。

まずはグループAの幹事をお務めいただきました山下てんせい議員から御説明を申し上げたいと思えます。

山下理事、よろしくお願いいたします。

○理事（山下てんせい） ただいま御紹介にあずかりましたAグループの理事、責任者をさせていただきます山でございます。

Aグループは吉田理事、そして平井委員、よこはた委員、原委員の5名で、主に10代から大学生といった若年世代である皆さんにアンケート及びインタビューという形で調査を進めました。

まず2025年神戸市はたちを祝う会代表スタッフとの意見交換会の報告からさせていただきます。お手元の資料でいいますと14ページでございます。

14ページ、1月19日からトピックに従って代表スタッフ4名と意見交換させていただいたんですが、全員が女性のスタッフでしたので、女子大学生の目線の意見がちょっと——そっちのほうにちょっと荷重があるということは先に申し上げておきます。

ただ、本当に事前に予想していたよりも皆さん神戸のことが大好きで、そして神戸のよいところといったら、ちょうどいい都会である、あるいは本当に神戸のいいところをよく分かってらっしゃるということで、神戸を愛してくださっている、それは実感することができたのはよかったと思えます。

また、結婚観、あるいは子供を持つことについても、結婚したい、そして子供も持ちたいと本当に前向きな回答を得ることができたんですね。ですので、世間一般的に言われているほど、今の神戸のお子さん方は本当に地に足をつけて考えてくださっていると思っております。

しかしながら、神戸市は現実として進学、そして就職の時期をもって神戸を後にする、あるい

はよその土地に引っ越しをしてしまうというのは現実でございます。それが一体どうしてなのかということを分析するのは、この場ではちょっと避けさせていただきましたけれども、少なくとも神戸市が頑張っていけないといけない、これから先、目指していかなければいけないという指針は間違いなく女性が働きやすい神戸になることではないかと思います。

ある女子大生が言いました。理系の方なんですけれども、理系のキャリアプランを考えたときに、自分のキャリアが上に上がっていくのと結婚・出産の時期がどうしても重なってしまう。そしたら女性は当然どちらかを選ばなければいけない。そういったことを率直にお話しいただきました。

まさにこれは神戸のみならず全国全く同じ課題ではないかと思っているんですが、その中でも神戸市が一体何が女性のためにしてあげられるのか、働く女性のためにどういったことが——手を差し伸べることができるのか、あるいはどういった環境をつくってあげることができるのか、そういったことは今後真剣に考えていく課題ではないかなと思っています。

そういったことをしっかり達成した上で、神戸に住み、神戸で子供を持つという選択肢については非常に前向きな意見をいただいたことは収穫であったと思います。

今後もちろん様々な取組あると思います。あるいは後のBグループ・Cグループにおける報告の中でも出てくるかなと思いますけれども、少なくともそういった環境をつくってあげるのは、市あるいは我々議会の声を届けるという役目にほかならないと思いますので、しっかり努めてまいりたいと思います。

そして高校生の皆さんに関しましては、後の報告書の21ページに1月14日から1月31日までの間、市立高校の2年生を対象として高校生意識調査をさせていただきました。回答率は35%、1,872名中、回答者656名、男子65%、女子31%、4%が回答しないという結果だったんですけども、こちらは先ほどと打って変わって男性の回答が多いというふうな結果になりました。

回答率35%ですから、精度はそこそこ高いんだと思うんですけども、こちらの結婚観についても、かなり前向きな意見が多うございました。結婚についてのイメージも年齢については厚生労働省が2023年に行った実態調査よりも若く、前向きな姿勢を感じます。

その一方で、結婚したくないという意見が4分の1ほどあるんですけども、その大きな理由というのが、コミュニケーションをどう取ったらいいのか分からない、こういった意見が目立ちました。私もその点に関しては学校教育の中でそういったプログラムがあるのかなのか、教育委員会のほうにも問合せしたんですけども、やっぱりコミュニケーション研修、あるいはそういったワークショップもやっぱり今の高校生の皆さんには必要な取組なのかなというふうに思います。

とにかくこういったトレーニング、あるいは教育の中で今後素直に育っていただける環境をしっかりと続けていくことが、恐らく根底に——子供たちの中にある結婚、あるいは子育てに対する意識というものは素直なものなんだと思います。ただそれをやはり変えてしまっている、あるいは情報過多になっていると思われるのがSNS等で流れてくる子育ては大変だとか、あるいはまだ働いてもいないのに、いわゆる子育てにお金がかかるという不安、そういったものの情報を受けて、それについて不安がっているという実態が少し散見されました。ですので、そういった部分に関してのリテラシー教育というものもまた必要ではないかなと思っています。

総括させていただきますけれども、中高生の皆さんは本当に結婚や子育てに対して前向きな考え方を持っていますので、そういった考え方をしっかりと受け止め、素直に育てていくという環

境を今後も続けていく必要があろうかと思いを申し上げますということを申し上げまして、私からAグループの報告に代えさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

○理事（吉田謙治） 御苦労さまでした。

続きまして、グループBの幹事をお務めになりました木戸さだかず議員より御説明申し上げます。

木戸理事、よろしくお願いいたします。

○理事（木戸さだかず） よろしく願いいたします。木戸と申します。

それでは私のほうから報告をさせていただきますのは、皆さんのお手元にある紙の47ページを御覧いただけたらと思います。それから73ページまで、47ページから73ページまでを私たちグループBの報告ということでまとめさせていただいています。

まず、このグループB、何をしたかといいますと、若者及び子育て世代の雇用に関する市内企業と事業者に対する調査をしていこうということで活動させていただきました。

グループBのメンバーにつきましては47ページに記載しておりますので、御参照いただけたらと思います。

48ページに移りまして、まずこのグループBのミッションなんですけども、先ほども述べましたが、若者及び子育て世代が神戸で働きたいと思えるために企業の取組であったり、雇用の状況、そして雇用の課題、どんなことを課題と感じておられるかを明らかにするということをミッションとして活動させていただきました。

調査方法としましては、市内企業にアンケートを取ろうということで実施をさせていただきました。

このアンケートにつきましては、神戸商工会議所の会員宛てにメルマガということで、2,500社ほどメルマガ発信してるんですけども、これ当局のほうに聞くと大体メルマガに流しても返事がほぼないということでしたので、それではなかなかアンケート回収できないということで、ミモザ企業を含む市内企業・事業者へ直接郵送しようということで600通——600社に対して郵送をいたしました。回答数が139社あったということで、大体推察するところで600社に送って140ぐらい返ってきたということは、一般的に市でアンケート等を取って有効とされるような水準を達しているのかなということで思っています。

49ページ以降なんですけど、ざっくりとアンケートの——どのようなアンケート取ってどのように解釈してるかというのを報告させていただきたいと思います。

まず、49ページめくっていただくと求人についてなんですけども、これいろいろ調べますと、下にまとめておりますが、やはり若者の募集というんですかね、求人を出してもなかなか応募がないと。特に事業規模が小さくなればなるほど、若者の求人に対しても応募が少ない状況というのがアンケートから読み取ることができました。

次、50ページなんですけども、情報取得ということで、応募してくる方々はどういうところで情報を取得してるかと考えておられますかみたいなアンケートを取りましたら、やはりほとんどが求人サイトが圧倒的に多いと。昔ありました求人情報誌であるとか、市も一緒になって開いてる合同説明会、企業の説明会というところからの情報取得というのは今の若者は非常に少ない、ネットが多いというふうなことになりました。

次、51ページめくっていただきまして、募集に際して課題はあるかというふうにアンケートを

取りましたところ、課題と感じている企業とか事業者が37%ということで、ここ少ないと記載しておりますが、ここはいろんな見解があるかと思いますが、全体で3割から4割なんだなということで過半数はいつてないんだなということを感じさせていただきました。

特に課題と感じていることは何かというところで回答がありましたのが、やはり子供の体調による急な休みであるとか、勤務時間が限られていることといった処遇面の課題、また賃金面で非常に低賃金というところで、なかなかその賃金に対して応募がないというふうな課題と感じていると、また意識の世代間ギャップみたいなのがあるというふうなことを課題と感じている企業もあったということです。

続いて52ページ行きまして、行政支援——企業は行政支援を求めているかというふうなことを調べるためにアンケートを取りました。これに対しては行政支援が必要と感じるというのが58%回答がありまして、特に感じないと答えてるのが13%でしたので、結構企業さんは行政にいろいろ支援をしていただきたいんだなというふうな思いを持っておられるということを確認させていただきました。

特に具体的な支援なんですけども、賃金への助成といった金銭的なものだけではなくて、出会いの場であるとか、サイトづくりとか、知ってもらうきっかけづくりなどを求めているという声がありました。

53ページ見ていただきまして、選ばれるために企業は何をしてるんだということをお聞きしましたら、下につらつらと書いておりますが、非常に多岐にわたって回答がありました。

これらをまとめまして、最後55ページにグループBの案として見解をまとめたんですけども、働き手の求める労働環境、ワーク・ライフ・バランスのこういったものに変化が大きく出てるんですけども、企業のほうとして受皿として、なかなか十分な体制が整っていないなということが明らかになりました。

特に神戸市でもいろんな中小企業等に支援をしてるんですけども、それを活用してるのはやっぱり一部の企業にとどまっております、今回のアンケートではいろんな支援、こういった支援が欲しいというのが多岐にわたりましたので、やはり市としても細かくいろんな多様な施策メニューを、これやっぱりつくっていかなくちゃいけないんじゃないかなということで、グループBとしては提言という形でまとめさせていただきました。

その56ページ以降につきましては、細かなこのアンケートの調査の結果、また後ろのほうには企業が具体的な支援メニュー等々書いて、こういったことがあればいいよって書いてきたものを載せていますので、御覧いただけたらと思います。

以上で報告を終わります。ありがとうございました。

○理事（吉田謙治） どうもお疲れさまでした。

続きまして、グループCの幹事をお務めになられました前田あきら議員より御説明を申し上げます。

前田理事、よろしくお願いいたします。

○理事（前田あきら） 理事の前田あきらです。よろしくお願いいたします。

グループCは門田委員長、香川委員、三木委員、坊池委員と私、前田が担当し、子育て中の世帯に対面で神戸の子育て施策への評価や課題について直接御意見を伺う調査を行わせていただきました。

報告書の74ページ以降を御覧ください。

1つ目の調査は、未就学児の保護者を対象といたしまして、須磨区の北須磨支所にございます子育て支援施設——おやこふらっとひろば名谷の利用者と従業員の皆様に対して聞き取り調査を行いました。

聞き取りでは、子供の遊び場の多さや医療費助成制度など、神戸市の子育て世代に対して一定の評価をいただいています。その一方、兄弟一緒に保育所に入れなかった、他都市のように医療費助成は無料にしてほしいなどの御意見もいただきました。

また、多子世帯だけでなく一人っ子でも支援をしてほしい、所得制限をなくしてほしいなど、神戸市の制度充実を求める御意見、また、仕事に戻ってもフルタイムで働ける保証がなく収入の不安がある、働き過ぎると保育料が高くなる、そういったときにプラスアルファの支援があれば仕事に戻れるなど、子育てと育児の両立ができるよう仕事復帰の支援をしてほしいという御要望もいただきました。

2つ目の調査は、小学生から大学生までの子供を育てている保護者を対象といたしまして、地下鉄名谷駅ビル内にある職住近接オフィス——神戸名谷ワークラボS U M A i l e 様に御協力をいただきまして、その就業者の皆様と意見交換会を行いました。

寄せられた御意見として、市内・県内・県外一部の美術館・博物館などが無料になるのびのびパスポートは積極的に活用していると評価をいただきました。その一方、出産から就学前までは神戸市は支援が手厚いが、それ以降、特に中学生から高校生に進学後は支援が少ないという印象がある、また大学生に対しても何らかの支援があれば神戸に住み続けるようになるのではという御意見もいただいています。

調査全体を通して、所見といたしまして、未就学児の保護者より中高生の子育て中の保護者の方のほうが具体的に求める施策が多く出されました。中でも経済的な支援の充実を求める声が強かったと思われます。子育て世代への支援策の充実が求められていると考えています。

また、他都市の子育て支援制度と比較された御意見が多く出されました。

その一方で、神戸市が行っている独自施策への認知度は低く、行政として発信力がなく子育て世代に届いていない、施策があっても使いづらいなどの御意見が出されており、施策の広報の在り方や制度設計においても、子育て世代のニーズに合っていないなどの課題も見えてきました。

さらに、神戸市が子育て世帯に選ばれ続けるまちになるためには、学校の先生の給料も上げ、教員を増やしてほしい、過密の学校を改善してほしいなど、教育の質の向上を求める御意見もいただいております。

神戸市が子育て世帯に選ばれ、住み続けたいまちとなるためには、保護者のニーズに合った子育て支援のさらなる充実とともに、子育てと仕事の両立という課題にも神戸市として応えていく必要も大切だと考えています。神戸市は、ライフステージに応じた切れ目のない支援を掲げていますが、特定のライフステージに応じた支援の強化、例えば中学・高校への進学時に教育費の負担の軽減でありますとか、出産後に仕事に復帰しても家計負担が増加してしまうことへの対応など、そちらへ焦点を当てて、そこへ重点的に経済的支援や就業先への助成を行うなど、支援をより厚くするということも考えられるのではないかと思います。

神戸市が子育て世帯に選ばれ、住み続けてもらえるまちとなるように努力を行うことが、全国的な少子化傾向の克服の一助につながることも願って、神戸市議会としても住民の皆さんの御意見に真摯に耳を傾けながら、願いにかなう施策の実現に力を尽くしていきたいと思っています。

以上です。



○理事（吉田謙治） 御苦労さまでした。

今3つのグループから御報告をいただきましたけれども、その後の委員間討議やこの間見えてきた課題に対する意見等につきまして、委員長の門田より御報告を申し上げます。

門田委員長、お願いいたします。

○委員長（門田まゆみ） 私からは活動報告のうち委員間討議、見えてきた課題に対する意見、まとめについて御説明をいたします。

初めに、委員間討議です。

委員間討議は3月12日と4月9日の2回行いました。

1回目は各グループからフィールドワークの報告を行い、おのおのがフィールドワークを通じて感じたことなど、調査テーマに基づいて意見を出し合いました。

1回目の討議の概要につきましては、報告書の87ページから89ページに掲載しておりますので、後ほど御確認ください。

2回目は1回目の委員間討議の意見を整理し、本委員会の活動報告をまとめるための議論を行いました。

討議の中では、出産や子育てが女性の働き方の障壁になっていることや、家事や子育ての負担が女性に偏りがちであることなど、神戸に限ったことではないが、社会としては重要な課題についても報告書で触れるべきではないかという意見がありましたが、そのような社会的課題や背景がある中で、委員会としては今回の調査テーマで調査した結果やその後の討議で見えてきた共通の課題や意見を整理し、活動報告としてまとめることといたしました。

2回目の討議の概要につきましては、報告書の90ページから94ページに掲載しておりますので、後ほど御確認ください。

続きまして、見えてきた課題に対する意見でございます。

報告書の5ページを御覧ください。

本委員会は、今回の活動結果から、神戸市が子育て世帯に選ばれ、住み続けたいまちになるために必要な視点として3点を整理いたしました。

最初に、「子育て支援策が伝わる、子育てとの両立がイメージできる」です。子育ては長く続くものという視点から、神戸市はライフステージに応じた切れ目のない支援を打ち出しております。支援策の一覧については、報告書の77ページにも掲載をしています。

しかしながら、調査では制度を知らなかったという意見が多く寄せられました。私も調査を行う中で直接そのような御意見をお聞きし、これはそもそものスタートラインに立っていないなということで衝撃を受けました。

また、情報を確実に届けることももちろん重要なことですが、単に届けるだけではいけません。その制度が子供、あるいは利用者である親のライフステージのどの場面で利用できるのか、利用することで利用者の生活にどのような効果があるのか、例えば子育ての不安や困り事が解消する、仕事あるいはプライベートと子育てが両立できる、利用すれば将来によりよいイメージを持ってもらえるような発信も必要だといった意見が討議の中でもありました。

まずは子育て支援策が利用者に確実に伝わること、分かりやすいこと、そして将来によりよいイメージを持ってもらえるような発信を市政に求めていく必要があると考え、1つ目の視点として、「子育て支援策が伝わる、子育てとの両立がイメージできる」を挙げました。

2つ目の視点は、「真にニーズに合ったサービスが提供できる」です。

調査では、子育て支援策は知っているが、サービスが利用しづらい、利用していないといった意見も多く寄せられました。私もふだんから手続が面倒、必要と思わないといった御意見をいただくことがあります。

生活環境の異なる利用者のニーズに応えていくことは非常に難しいことで、細分化されれば情報発信も複雑になってしまいます。しかし、幾ら支援策を打ち出しても、それが届いても利用されなければ意味がありません。

また、利用者のニーズも社会情勢によって大きく急速に変化していく中で、かつて好評を得た支援策が今も同じように好評であるとも限りません。

支援策はつくって打ち出せば終わりではなく、子育てと同じように手をかけ、その時代や社会に合うよう、また利用者に寄り添いながら、よりよい支援策となるよう育てていかななくてはなりません。

そういった意味から、既存の制度や新たに提供するサービスについても提供開始の前後だけでなく、利用者のニーズを的確に把握し、絶えず見直しを行い、充実を図っていく必要があると考え、2つ目の視点として、「真にニーズに合ったサービスが提供できる」を挙げました。

最後に3つ目の視点として、「子育て世帯が働きたい、又は働きやすいと思える職場がある」です。

今回の調査では、先ほど木戸理事からの報告にもありましたように、働き手の求める労働環境やワーク・ライフ・バランスの大きな変化に企業側が十分に対応できていないという状況が見えてまいりました。ほかの2つの視点とも関連いたしますが、子育て世帯の雇用の受皿である市内企業・事業者が求めている行政支援が用意されているのか、それが届いているのか、この点についても市政に対して訴えていく必要があると考えます。

若者や子育て世帯が神戸で働きたいと思ってもらえるように、その対応に取り組む企業を支援するメニューを増やすなど、多様化する企業側のニーズに合ったきめ細かい支援を求めていく必要があると考え、3つ目に、「子育て世帯が働きたい、又は働きやすいと思える職場がある」を挙げました。

このほかにも、調査やその結果に対して様々な意見がございましたが、委員会として共通の見えてきた課題とそれに対する意見として3つの視点を整理させていただきました。

最後に、報告書の6ページを御覧ください。

こちらには、委員会活動全体の総括をまとめさせていただきました。今年度の調査テーマ、「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」を考えるに当たり、私たちは実際に今子育てをしている御家庭の声を聞くことはもちろんのこと、これから将来、結婚や子育てを経験するであろう若い世代にも目を向けることが非常に大切だと感じました。日本全体で人口減少や少子・高齢化が進む中、社会の将来を支える若い世代が、ここで暮らしたい、家庭を築きたいと前向きに思えるような環境を整えることは、神戸市でも喫緊の課題と捉えております。

今回の調査では、高校生の約7割が結婚や子育てを前向きに考えていると答えてくれました。これは非常に心強い結果である一方で、将来の収入や生活が不安、今の社会で子育てできるのか心配といった声も多く寄せられました。

その背景には、SNSやテレビ、ネットニュースなどを通じ、ネガティブな情報が拡散されやすい現代の環境があると感じています。一たび刷り込まれたイメージはなかなか払拭されず、不安をより大きくしているのかもしれない。

さらに、女性が結婚や出産によって仕事のキャリアが中断されることへの不安や、今もなお家事や育児の負担が女性に偏っているといった根深い社会課題も見逃せません。これは個人や神戸市だけの課題ではなく、国、社会全体で受け止め、変えていくべき構造的な課題だと受け止めております。

私たち議員は、こうした現実に向かってしっかりと向き合いながら、若い世代が将来に希望を持てるような社会をどうつくっていくのか、具体的な政策として提案し、そして市民に分かりやすく伝えていく責任があります。神戸がこれからも子育てをしたい、ここに住み続けたいと選ばれるまちであり続けられるように、今年度の活動で得た気づきや学びをこれからの議会活動にしっかりと生かしてまいりたいと思います。

また、子育てに関連することは今回の調査対象、調査範囲だけでは当然ありません。この市民報告会に事前にお寄せいただいた御質問の中にも、今回の委員会で調査していない、議論していないけれども、子育てを考える上で重要な観点もたくさんございました。時間の制約の中で今回調査できなかった事項、議論できなかった問題・課題に対しても、当然に引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、本委員会の取組、とりわけフィールドワークに御協力いただいた全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私からの活動報告に関する説明は以上です。ありがとうございました。

○**理事**（吉田謙治） それでは、ここからは各委員から委員会活動に対する思いを一言ずつ発言させていただきたいと思います。大変申し訳ありませんが、時間の制約がございまして、お1人2分という非常に短い時間でございますけども、よろしく願いをいたします。

委員の皆様には、2分が経過いたしましたら、卓上ベルでお知らせいたしますので、発言をおまとめいただきたいと思います。

では、まず山下てんせい議員からお願いいたします。

○**理事**（山下てんせい） 山下てんせいでございます。

私が今回子育て世帯に選ばれるまち神戸を実現するためにというテーマで1年間議論をさせていただいた中で、折しも神戸市は、日本経済新聞社が行う共働き子育てしやすい街の第1位でございます。実は神戸市の子育て施策というのは十分に行き届いていると私も思っておりました。

しかしながら今回の調査を行う上で、まだ行き届いていない、あるいは知られていない、あるいは本当に必要なのか、必要でないのかということを考えていない、そういった側面が見られました。

幸いにして私が所属していたグループAでは、郷土愛という部分に関しての醸成は成功していると思います。ですので今後は子育て世帯の声をしっかりと聞きながら、何が本当に必要なサービスなのかということをしっかし意見して、そして行政に訴えかけていく必要があるのではないかなと思いましたので、今後の政策の糧とさせていただきます。

以上です。

○**理事**（吉田謙治） 次に、前田あきら議員、お願いします。

○**理事**（前田あきら） 日本共産党須磨区選出の前田あきらでございます。よろしくお願いします。

調査を通じまして、神戸の子育て支援策について厳しい御意見いただくと同時に、子育て環境を本当によくしたいという熱い思いをたくさんお聞きすることができました。

グループAの大学生の世代からは、駅から離れた地区の高齢化が心配、習い事も部活も送迎で

親に負担をかけたと、交通不便を放置すれば、まちの不均衡につながるなど、まちづくりの観点からの御意見もいただきました。

グループBの雇用主からは、給与のベースアップや子育て世代の働く時間を配慮するためには、中小企業者への賃金助成金の拡大など、働き方改革、働き方の改善を求める御意見をいただきました。

グループCの子育て世代の皆さんからも、新興住宅街ができたが、学校が過密で教室や運動場が不足している、もっと中高生の放課後の居場所づくりをつくってほしいと、部活の遠距離移動が不安など、教育環境改善の御意見も出されました。今日の参加者からも、マンションや再開発のまちづくりとの関連や教育問題を重視してほしいなどの御意見もいただいております。

私といたしましても、皆さんの御意見に応じて学校給食の無償化など重い教育負担の軽減をはじめ、子育て支援の抜本的な強化ですとか、賃上げと長時間労働の解消など、男女ともに家族的に責任を果たせる働き方の改革に力を尽くしていきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○理事（吉田謙治） 続きまして、原 直樹議員、どうぞ。

失礼いたしました。木戸議員ですね、ごめんなさい、すみません。

○理事（木戸さだかず） 委員会活動に対する思いということで述べさせていただきます。

今回のいろんな子育て世帯とか企業さんからいろいろ声をお聞きして、やはりいろんな意見が今の時代は大きなマスとしてみんなが動いてるんじゃないくて、1人1人がそれぞれ違う思いを持って、またいろんな施策を必要としているんだなということを感じさせていただきました。

私は丹波篠山出身でして、兵庫県でいうとちょっと上のほうになるんですけども、田舎が抱えてる問題というのは、子供たちは大きくなったら南に——兵庫県の場合は神戸に行く、また神戸まで着いたら、次大阪、東京に行くということで、本当は神戸がトリガーになってぐっとやはり人をキャッチしなきゃいけない、それについては今のみんなの個々のそれぞれの細かな思いを個別にきめ細かな政策でやっぱり神戸市はやっていくべきなんじゃないかなということを改めて感じさせていただきました。

今後ともこの委員会活動を踏まえて議員活動に生かしていきたいと思います。どうもありがとうございました。

○理事（吉田謙治） 大変失礼しました。

次に、原 直樹議員、どうぞ。

○委員（原 直樹） 皆さん、こんばんは。原でございます。本日は未来都市創造に関する特別委員会の市民報告会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

今回「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」という調査テーマで活動してまいりました。その中で今年1月19日に行われました神戸市はたちを祝う会の代表スタッフの方々と意見交換会において、若い方からの貴重な御意見を伺うことができました。

その意見交換会の御意見の中で印象的だった御意見としましては、これだけ少子化が進行している中でも結婚や子供を持つということにポジティブな意見が多かったという点、そして若い方でも老後に対する不安を持っているという方が多く見受けられた、この2点が私にとって非常に意外であるなというふうに感じました。

ただし結婚に関しては、別の高校生のアンケート結果によりますと、金銭的な裕福さが失われるですとか、あとは家庭を支える責任が生じ気楽さが失われるといったネガティブなイメージも

持つ方も多くおられました。

これにより、若い方々の心の中では、結婚等についてよいイメージですとか悪いイメージ、これ混在しているんだなという印象を受けました。

また最近では、価値観、悩みの内容が非常に多様化しております。先ほど申し上げた老後に対する不安という将来不安であったり、あとアンケート結果でも非常に多岐にわたる不安や悩みを回答されております。

以上のことから、これからは今まで以上に子育てをされている方1人1人の悩みを解決できるように、またその方に適した、よりきめの細かい支援を行うことにより、神戸市が子育て世帯に選ばれるようにしていくとともに、住み続けたいまちづくりに努めていかなければならないというふうに感じました。

以上でございます。

○理事（吉田謙治） 次に、岩佐けんや議員、お願いします。

○委員（岩佐けんや） 岩佐でございます。こんばんは。

2点ございまして、1点目は報告書のまとめにも、一度刷り込まれた情報は新たな情報に置き換えることが難しいとありますけれども、神戸市がやっている施策は明石市よりも様々な面で優れてると思ってるんですけど、なぜか明石には負けるなど言われてしまうということですか、これは神戸市の広報力のさらなる向上を目指したいと思いました。

2点目は、グループBとして企業や事業者向けのアンケートをするグループに所属してたんですけども、子育て世帯に選ばれるために取り組んでいることがあれば教えてくださいという質問の回答が非常に印象深いものがありました。

そこには子供の病気などの急な休みにも寛容な社風というのをアピールしてる回答と、できるだけ休まれてもよい部署にしか配属しないという回答がありまして、2つとも内容としては子育て世帯に配慮していると取れますけれども、回答した担当者の書き方1つで正反対に感じられることでもございました。休まれるのがよっぽど嫌なのか、子育て世帯を応援しているのかという2者でございます。

こういった意識の啓発、意識の改革、こういったものを自治体として、人を大切に最優先にするまち神戸を未来に向けて創造できるように今後も取り組んでいきたいと深く決意しました委員会活動でございました。ありがとうございました。

○理事（吉田謙治） 次に、香川真二議員、お願いします。

○委員（香川真二） 皆さん、こんばんは。最近やっと皿を洗ったりとか、洗濯物を干すようになりました。この委員会のおかげだと思っております。

最近1週間前なんですけど、知り合いの方が出産したということで、1か月ぐらいの赤ちゃんだっこしたんですけど、やっぱりいいですね、赤ちゃんって。やっぱり僕も48歳になって、だんだん子育て世帯と言われる年から大分上に来たんですけど、早く孫欲しいなと思うようなそんな感じをやっぱり赤ちゃんって与えてくれるなと思いますし、今回グループCの中で、おやこふらっとひろばというところに——名谷に行かせてもらったんですけど、もう子供がすごいたくさんいるんですよ。その中でもお母さんたちもすごく意見交換したりとかされてて、とっても活気があるなと、やっぱり赤ちゃんとか子供って、このまちの活気をつくるんだなと思いました。

その日の午後にワークラボSUMA i l eさん——今日来られておられますが、そこで働いてるお母さんの話を聞く機会をいただきまして、本当に民間事業者のほうが進地的に、いろいろも

うお母さんたちを——働いてもらいたいという思いもあってですけど、いろんな取組されてるんですよ。本当にそういったところにヒントがあるんじゃないかなと思います。

この子育て世帯に選ばれたい、選ばれるまちを神戸をつくるんだというのには、やっぱり我々人口も増えてほしい、増やしたいという思いもあります。

ここからは私の私見にも——意見にもなるんですけど、今の神戸にはまだ人口を増やすといっても目標値すらないんですよ。例えば20年後に今の人口150万人、1.1倍にするよと、165万人にするよというふうなまずは目標数値を定めて決意を持ってやれば絶対できると思っております。神戸にはその力があると思います。

以上でございます。

○理事（吉田謙治） 次に、大野陽平議員、お願いします。

○委員（大野陽平） グループBの企業調査のグループに所属しておりました大野陽平と申します。本日はありがとうございます。

私自身、東灘区選出でして、東灘区内に本社や拠点を構える企業さんであったり子育て中の保護者の方々にもお話を聞きまして、例えば東灘区内に本社を置くあるスーパーさんでは、子育て中の親御さんが働いてる数も非常に多くて、そこでは時短勤務であったりだとか、急なお休みにも社内の中でしっかりと柔軟に対応ができるという、そういった制度も整えておられまして、実際にそこで働く方にお話を聞くと、この会社であれば子育てをしながらでも働き続けられるし、やっぱりこれからも働き続けたいというそういった安心感がこの企業であったり地域への定着につながっているというお声もございました。

また、東灘区って酒蔵がすごく有名なんですけど、ある歴史もある酒造会社さんにおいては、男性の育児休暇もかなり進んでおりまして、家族を大切にするという企業の文化というのがしっかりと根づいてきているというお声もございました。本当に数百年続くこういった伝統ある企業がこういった時代の変化を捉えて柔軟に変わっていくというのも、やはりこの地元としては非常に心強いなというふうに感じました。

私自身も2人の子供がいる子育て世帯なのでよく感じるんですけども、当然神戸市、様々な子育て支援策というのはやってくれてます。おむつを届けるであったりだとか、保育料の減免というのものもあるんですが、やっぱり神戸市だけでできることというのは限られておりますので、そういった市内の企業ともしっかりと連携をして、チーム神戸として一緒になって子育てを盛り上げるまちにしていかなきゃいけないなということを感じました。

以上です。ありがとうございます。

○理事（吉田謙治） 続きまして、三木しんじろう議員、お願いいたします。

○委員（三木しんじろう） 三木でございます。よろしくお願いいたします。

私はCグループに所属をさせていただきまして、子育てをされている御家庭に聞き取りとアンケート調査のほうをさせていただきました。

今後やはり子育てのトレンドとか、その求められる子育ての環境というのは時代とともに変化があると思うんですけども、今回の調査をさせていただきまして、私自身は2つ課題が浮かび上がったというふうに思います。

1つ目は支援制度の伝わらなさ、そして届かなさといった広報周知の問題だと思います。

制度を知らないとか情報が見つけづらい、そして知っていても使いづらいといった声がありました。神戸市は子供や子育て世帯に多くの施策を展開しておりますが、制度を知らないという

ような現実があれば、利用者にとっては支援がないと感じるのは当然であると思います。

これに対して子育てをする子供の年齢差というのは様々でありますし、そのライフステージに応じた広報、そしてLINEとかSNSを活用して生活動線上での情報発信、制度の内容を告知ではなくて活用イメージで伝える工夫が必要だというふうに考えました。

そして2つ目は、制度設計と利用者ニーズのミスマッチということです。

制度があっても使いづらいと、対象外と感じる人が多くおりました。

今後は定期的に子供たちや利用者から評価をいただくなど、評価や改善を重視すること、また共働き世帯、独り親家庭、多子家庭など、それぞれに合った制度設計が求められていくと思います。神戸らしい支援の在り方として、働く・育てる・住むを一体化させたプランの提示や地域差の可視化、市民の方々との双方向のフィードバックが鍵になると感じました。

このたび行った調査、アンケートなんですけれども、エリアのほうに限られておりますし、回答数も限られておりますので、神戸市全体の課題ではないかと思うんですけれども、我々としても今回の結果というのは、ぜひとも参考にしていただきまして、施策の展開のほうに活用させていただきたいと思います。

以上です。

○理事（吉田謙治） 次に、大かわら鈴子議員、お願いします。

○委員（大かわら鈴子） 皆さん、こんばんは。兵庫区選出の大かわら鈴子と申します。

私は企業のアンケートを行ったBグループで活動いたしました。

そのアンケートを通じて感じたことなんですけれども、企業側も若い人や子育て世代などの方を受け入れて働き続けてもらいたいというそういう思いは持っていちゃることが分かりました。だけでもやっぱり制度や環境づくりが難しいと。そこで望まれているのが行政の支援だと、こういうところでは行政の役割というのはやっぱり大きいんだということを感じました。だからこそ何が求められているのかを丁寧に調査をして、支援内容を具体化をしていくべきであるというふうに思います。

現在神戸市の企業へのこういう面での支援というのを調べてみてもやっぱり少ないので、そこら辺では企業支援ということと、それから子育て支援にもなるんだと、両面の効果があるんだということで、そういう視点で取り組んでいくべきではないかなというふうに思います。

また、住み続けられるまちという点では多くの方から公共交通の利便性を向上させてほしいというお声もいただいております。

これについては、今神戸市としては市バス路線の再編縮小ですとか、便数削減とか逆行するようなことをやっていますので、市民の声を丁寧に聴いて改善をしていくべきであるというふうに思います。

また、ジェンダーギャップですとか子育て、それから経済的な問題で、高校生の方や大学生の方は既にもう将来的な不安を感じていちゃるということに本当に強い驚きを感じました。世代を超えての問題意識を持っていちゃるということを感じました。

これ自治体から解決に向けての具体的な施策展開がやっぱり必要であるというふうに思います。例えば男女の賃金格差の解消など、神戸市から積極的に企業へも働きかけていくなどしていくことが必要ではないかなというふうに思います。

これら今後もしっかり取り組んで、住みやすい神戸、働きやすい神戸、子育てしやすい神戸ということで頑張っていきたいというふうに思います。

以上です。

○理事（吉田謙治） 次に、よこはた和幸議員、お願いします。

○委員（よこはた和幸） こんにちは。よこはたです。

神戸の最大の課題は何か。人口減少であります。我が国全体そうではありますが、神戸も人口減少が避けられません。

しかし神戸は学生都市で、大阪の学生は3万5,000人程度ですけど、神戸は25大学7万人います。ここがしっかり神戸に定着すれば、神戸の人口は私はそんなに悲観するものではないと思いますが、残念ながら兵庫県含めて転出超過、もうほかに流れているのが事実であります。

これはなぜか。もう東京の重力がすごくて、実は私もそうでありましたが、神戸市会議員になって分かることは、神戸にはすてきな企業がいっぱいありますので、こういった企業側もしっかり発信をしていただくことや、また神戸空港の国際化や医療産業都市という非常にプラスの面もありますので、しっかり人口を増やすということ、学生にとどまていただくということを行っていきたいと思っています。

今日は神戸がお好きなメンバーだと思いますので、一緒に建設的な御意見いただきたいと思います。ありがとうございました。

○理事（吉田謙治） 次に、平井真千子議員、お願いいたします。

○委員（平井真千子） 私はグループAで大学生の皆さんとお話をさせていただきました。

そのことについて、まとめのところにも入れていただいたんですけども、結婚や出産によって仕事のキャリアが途絶えてしまうことに対する若い女性の不安の声や、依然として男性より女性に家事や子育ての負担が偏りやすいなどといった社会全体の課題も見過ごすことはできないとまとめに入れていただいたんですけども、すごくそういうお声を大学生の方からお聞きをしたということがちょっとショックといいますか、彼らの母親の世代である私と、働くこととかそのキャリアに関する不安というのが何も変わるところがないんだなというのが少しショックに思いました。

その解消のためには、女性に対する支援とか、お母さんに対する市民サービスというのも結構なんですけれども、それだけの問題と捉えると何も解決しないなと思います。

女性にとってのワーク・ライフ・バランスの問題、家族の問題としてこれまでの固定概念というのをまだまだ変えていかないといけないなというふうに思っておりますし、そんなことも含めて委員間討議の中でもいろいろ意見を出し合えたというのは有意義だったんじゃないかなと思っております。

この委員会以外で委員同士で討議をするという機会は、なかなかほかの委員会ではございませんので、またそうしたやり取りを通して、社会の変革ということに、ちょっと大上段に構えますけれども役に立っていききたいなというふうに思いました。

以上でございます。

○理事（吉田謙治） ありがとうございました。

それでは最後に私のほうから発言をさせていただきたいと思います。

ただいま皆さんからいろいろ御意見出ましたので、私からは人口減少対策ということも当然あるんですけども、子育て支援策はその中の1つといいますか、大変重要な1つの政策でありまして、今回この子育て支援策をテーマに議論をさせていただきました。特にフィールドワークということで、直接やはりもう1度改めて市民の皆さんの意見を聞こうということが今回の委員会



活動の特徴であったと思います。

その中で簡単に申し上げますと、改めて1点豪華主義では駄目だなと。政策としてアピールするのは、何々を全部無料にしますという例えば給食代全部無料にしますということを堺市さんやられるんですけども、なかなか1点豪華主義でできればいいんですけど、みんな無料にできればいいんですけども、例えば年齢——いろいろな小さい年齢から大学生までいらっしゃるんですが、やはり今回いろいろと若い方々の御意見をお伺いしても、全ての年齢層にわたっての支援をお願いしたいということがございました。

それからもう1つは、どうしても経済的支援に偏りがちなんですけども、経済的支援だけではなくて、労力といいますか、子育ていろいろ労力かかりますので、それを助けてほしいというこの労力の支援であったり、あるいは精神的な支援ですね、いろいろ子育てで悩んだりとか、よく鬱になったりということありますけれども、こういう精神的な支援をどうするかという課題もありました。

最後は、女性はやっぱり、男性もそうなんですけど、生きがい——やっぱりお仕事を通じて自己実現をしたいという生きがいに応えられるかどうか。残念ながら、どうしても女性の皆さんは田舎のほうだと——ちょっと語弊があるかも分かりませんが、因習深きところでは生きていきたくないというようなことで都会にどんどん行かれるそうですね。大都会では男性よりも女性のほうが多い。田舎には何か男が残されるみたいなことがあるそうでありますけれども、これもやはり皆さんの生きがいをどこで実現ができるかというようなことでの現象なのかなというふうに思いました。

こういうことで、あらゆる年齢を通じて今申し上げた4点の対策も含めて、経済的支援は重要でありますけれども、バランスよくこれから進めていかなければいけないというのが、まさに会派を超えて党派を超えて議論させていただいた今年の成果であったのではないかと思います。

それでは以上で私どもからの御報告というのを終えたいと思います。

今回あらかじめ御参加の皆様から事前に御質問をいただいております。皆さんのお手元にも、この御質問の一覧をお配りをいたしておりますけれども、この御質問に対してそれぞれの担当いたしました議員からお答えをさせていただきたいと思います。

それでは、その前にちょっと委員長のほうからちょっと特別委員会の制約がございまして、すべからく議論をしたわけでもございませぬので、そのあたりちょっと委員長のほうから趣旨のほどを説明させていただきたいと思います。

門田委員長、お願いします。

○委員長（門田まゆみ） 未来都市創造に関する特別委員会では多様な意見を認め合い、会派間の意見の違いを超えて活動を行ってまいりました。そのため、各議員の回答も委員会としての一致した見解ではないということをお含みいただきたいと思います。

また、今年度の委員会活動報告に関連しない御質問についてはお答えできかねる場合もございます。また、コメントする場合には、委員会や議会を代表した意見ではなく、それぞれの議員の意見であるということも御理解をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○理事（吉田謙治） ということで、それでは御質問に対する回答といいますか、説明に移りたいと思います。

まず第1番目の御質問につきまして、委員会活動の内容に触れて幾つかの御質問いただいております。こちらの質問につきましては委員長の門田から回答させていただきます。

門田委員長、よろしくお願いします。

○委員長（門田まゆみ） ありがとうございます。

まず1問目の御質問に対してお答えをしたいと思います。

初めに、まずこの御質問を読ませていただいたときに、当委員会の活動報告を本当に丁寧にお読みをいただき、また複数での質問を頂戴いたしましたこと心より感謝申し上げます。また、神戸市政に対して強い関心をお持ちいただいていることは、私たちにとっても大変ありがたく励みになることであります。

さて、御質問の内容は多岐にわたっておりますけれども、今回は主に3点について私からお答えをさせていただきます。

最初に、会派間での意見の相違があったとのことですが、具体的にどういった点で違いがあったのかという御質問です。

この委員会は、様々な会派から委員が集まって、それぞれの立場やまた視点を持ち寄って自由闊達な意見交換を行う場となっております。

当然、各政党が持つ政策的な優先順位とか、価値観には違いがありますので、全ての意見が一致するわけではありません。ただ、当委員会にあっても、ジェンダーギャップですとか、子育ての女性への負担の偏りについて報告書に記載するとかしないとかといった意見のやり取りもありましたけれども、会派間の意見の相違と言えるほどのものはなかったように思います。

例えば意見の相違といえばマイナスのイメージを持たれがちなんですけれども、むしろ意見の相違こそがまた新たな視点や建設的な議論につながるものではないかというふうに私は考えております。

もし具体的な議論の様子を御覧になりたい場合は、今年の3月12日と4月9日の委員会の様子が神戸市のホームページでもインターネット録画中継として公開されておりますので、そちらのほうを御覧いただければと思います。

続きまして、フィールドワークの時期が予定より遅れた理由と調査対象に偏りが見られた点についてです。

御指摘のとおり、当初の計画では9月から12月にかけて意見交換やフィールドワークを行う予定でしたが、実際には当局との意見交換が10月25日、フィールドワークは各グループとも1月に実施をいたしました。そして4月開催予定の市民報告会も本日の開催となりました。

遅れの主な要因といたしましては、今年度新たな試みに挑戦したことにあります。従来の形にとらわれずに新しい取組ができないかというところからスタートをして、どんなテーマにするのか、どんな方法で実施をするのか、じっくりと話し合い、アンケートの内容や対象の選定、日程調整などに多くの時間を要しました。

その結果、スケジュールがタイトになって調査対象の範囲が限られてしまったということは事実です。これについては、今後の運営に生かすべき反省点としてしっかりと受け止めてまいりたいと思います。

また最後に、現在実施中の子育て施策が十分に周知されていないのではないか、またそれらの施策の効果は検証されているのかという御質問でございます。こちら也非常に重要な御指摘だと思います。

先ほど来ありましたけれども、今年度の新規の施策に限らず、既存の施策も含めて対象者への周知が十分でないということは今回の委員会活動の中でも明らかになりました。特にSNSなど

多様な情報媒体がある中で、誰にどのように届けるのかという情報発信の工夫が求められていると思います。

施策の効果につきましては、私たち議員が予算や決算の特別委員会で検証を行うほか、個別の事業につきましては、年度途中でも教育こども委員会などの常任委員会で継続的に議論をしています。さらには議会でも効果や課題について必要な指摘を行いながら、市政の改善につなげていく役割を果たしているところです。

そのほかの御質問につきましても、非常に鋭い視点からの御指摘と感じておりますが、時間の関係と、また本委員会では議論されていない内容も含まれておりますので、個別の御回答は差し控えさせていただきますことを御理解いただければと思います。

以上です。

○理事（吉田謙治） 回答は以上でございますけれども、大変申し訳ないですが、時間の関係上、次の質問の御回答に移りたいと思います。

障害者施策を含めた子育て支援策に関する御質問です。

こちらの御質問につきましては理事の前田議員から回答させていただきます。

前田議員、よろしくお願いします。

○理事（前田あきら） 私からは御質問のうち2つ目と3つ目になるかと思いますが、保育の充実や障害児支援など子育て施策について御回答をさせていただきます。

御意見や御要望の観点については、大きくは今回の報告書でも盛り込んでおります、真にニーズに合ったサービス提供ができるよう支援策の見直しや充実を求めていくことが必要というふうに盛り込まれているかと思っています。

それで保育施設の充実についてですが、御意見の中でも、就職したくても子供を預かってくれるところがないという点についてですが、先日4月1日時点の神戸市の保育所の利用状況が発表されています。国基準調査では4年連続待機児童ゼロとなっていますが、例えば特定の保育所を希望されるなど入所保留となっている児童がまだ824名残されています。

また、兄弟ばらばらの保育園では親の負担が大きいという御意見についてですが、兄弟が異なる施設を利用しているケースが多子世帯での保育利用の5%、小規模保育を利用してる方を含めると15%に上っている実態もございます。

神戸市としても地域ごとの保育ニーズなど多様な保育ニーズに対応に努めていくと表明をされていますことから、御意見いただきました在宅で育児を余儀なくされた場合の経済的な支援も含めてニーズに応えた保育環境の改善や保育人材の確保をしっかり要望していきたいと考えています。

障害児の子育て支援についてですが、重度障害児家族の負担軽減と利用できる公共施設の充実という点ですが、質問者も触れられておられますが、こべっこランドがそういった御家庭にも対応できる施設としてうたっていますが、ヘルパーなどをつけて利用される場合において土・日・祝日、夏休みや冬休みなど学校休業中の混雑時の利用が困難だという事例もお聞きしています。

神戸市として西神中央・岡場・六甲アイランドにこべっこあそびひろばがございますし、利便性のよいところとして、区役所と北須磨支所においては、おやこふらっとひろばが整備されていますので、障害児の御家族が気軽に御活用できるようにしてほしいという御意見については、改めて所管いたしますこども家庭局にもしっかりお伝えしたいと思います。

特別支援学校・学級卒業後の入所施設の不足ですとか、自宅で見ている家族への重点的な支援

への御意見についてですが、神戸市障がい者プランにおいて、地域支援拠点を区役所に整備して地域での生活を希望する障害者の地域移行・地域定着を推進しています。その下でも入所施設での年間利用者は1,200人から1,300人と引き続きニーズが高いことがうかがえます。

神戸市障害者施策推進協議会においても委員の方から、地域移行という国の方針はあるものの施設を希望する意見も多いため、本人の意向を一番大事にする形で進めるようにという御意見もいただいています。障害者とその御家族が選択できる暮らしの場の基盤整備という点で、特別支援教育においても、また卒業後の神戸にはしっかり受皿があるということは、重度障害児の御家族でも神戸では子育てしやすいと思っていただける上でもとても大切だと思いますので、この点もしっかり特別支援教育の充実は教育委員会に、暮らしの場の基盤整備は福祉局にそれぞれお伝えしたいと思います。

以上です。

○理事（吉田謙治） 次に、教育に関する御質問をいただいております。こちらの御質問につきましては、理事の山下議員から回答させていただきます。お願いいたします。

○理事（山下てんせい） 理事の山下でございます。

教育に関する質問をいただきました。読み上げますとね、神戸に生まれ神戸で育つ命の成長に教育は欠かせないものであると、未来の神戸に必要な教育をどのようにお考えかと、あるいはもうお一方、教育問題を抜きにして子育ては考えられないと、特に義務教育も含めてパッケージとして取り組む必要があるんじゃないかというふうな御質問をいただきましたけれども、全くそのとおりだと思います。

私は実はこの委員会が始まる時に、子育て世帯に選ばれるまち神戸を実現するためにどういうことを議論していくんだという理事会等があったんですけども、結果として教育というのは基本的に委員会でやるべきものだから、取りあえずそれを省こうということだったので、ここの議論に載ってないだけなんですけど、ただ教育の—— こういった教育が必要なのかという議論は当然あってしかるべきだと思います。

そこで、例えば教育委員会等では絶対展開されないであろうちょっと議論をさせていただこうと思いますが、単刀直入に申しますと、今の未来の神戸に必要な教育は郷土愛であろうと思っています。郷土愛を醸成するために、まず現在神戸市が取り組んでいるものというのはやっぱり食育です。特に教育に関して給食というのは1つの重要なファクターではないかと思っていますけれども、神戸市の小学校教育で提供されている米は神戸市内産の米を100%提供させていただいております。

これによりおいしいお米を食べていただいているという自負はあるんですけども、当然この神戸という土地が農業も盛んで、しかも産業もあってというそういった恵まれた環境であるんだということを食を通じて教えるということがすごく大事なんじゃないかなと思っています、それを今現在実践していると思います。

ただし、受け取り側の子供たちがちゃんとそれを正しく受け取ってくれてるかどうかというのはまだ不安なんですけれども、ただ我々Aグループでインタビューさせていただいた中で高校生、あるいは大学生の皆さんも神戸大好きと、神戸でこのまま子供を産んで暮らしたいというふうな意見がやはり優勢であったことを考えるならば、そういった教育は行き届いているんじゃないかなと思っています。

またもう1つ、絶対必要な議論は郷土愛であろうと思っています。

この郷土愛という部分を語るときに、やはりどうしても忘れてはいけないのが阪神・淡路大震災でございまして、阪神・淡路大震災以前の教育を受けた——私今ちょうど50歳なんですけれども、いわゆる団塊ジュニア世代であり氷河期世代と言われる世代でございまして。

20歳を迎えるまでは神戸に対して本当に夢と希望しかなかった。そのときは小学校・中学校のときから神戸はすごいんだと、神戸は全国的にも成功した都市であるとそういった教育を受けて育ってきました。当然神戸で就職して神戸で結婚するという人生のプランになるんだろうと思っていたんですけど、それをもう木っ端みじんにぶち壊してくれたのが阪神・淡路大震災でした。

そしてその阪神・淡路大震災の後、30年間、これは子供たちにとっては神戸は悲惨な都市だというイメージしかないわけですよ。これを聞いたら、そしたらもう神戸というのは衰退してる都市なんだから、もう夢も希望もないよねというふうな受け取り方をされてもおかしくないと思うんですね。これはちょっと私の意見入っていますけれども。

これ何が言いたいのかといいますと、やはり小学校・中学校のときに神戸という都市をどのように教えていくかということとはとても大事なことだと思います。なので、それをしっかり教育委員会の皆さんにも共有していただいて、どういった教育を施していけばいいのか。国・算・理・社とか体育とかそんな当たり前です。ですけれども、神戸の教育とは何ぞやということを考えたときに、まずは郷土愛、こういったものを醸成することが必要ではないかなというふうに思います。

私のほうからは以上です。

○理事（吉田謙治） 次の御質問でございまして、これ委員会として討議したわけじゃないんですが、御質問としてK O B E ◆ K A T S Uに関する御意見を頂戴をいたしておりますので、理事の木戸議員から回答させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○理事（木戸さだかず） 私のほうから—— K O B E ◆ K A T S Uに関連して御質問いただきました。

質問の内容を読ませていただきますと、まずちょっとネガティブにK O B E ◆ K A T S Uを捉えておられて、本当に不安があるということで、これに関しましてはやっぱり来年の9月から始まる中で、皆さんに不安等を与えていることは、やはり議会としてもしっかり市にもこれからも言っていきたいと思っています。

特におっしゃっておられる先生の負担を減らす目的でやってるんじゃないのということなんですけれども、また子供たちが運動できる場がこれから少なくなるんじゃないとか、経済的な負担どうするんだという課題等々おっしゃっていただきました。これらにつきましては、まず現状、部活動がどんな現状かということをまずはお伝えしたいと思います。

神戸市では今コロナぐらいから完全5時下校ということで、中学校はもう5時に門が閉まるという状況になっています。5時に部活も終えて帰ろうとすると、大体授業が3時半に終わって部活の準備をして片づけまで入れると、もはや運動部でも1時間、1日で1時間も部活ができないかという状況にありまして、また先生方も4割ぐらいの先生方が部活に関わっておられる、自分がやったことのない競技を教えているような状況にありまして、子供の数も減って野球部等もチームができないとかいろんな課題がありまして、これから10年先見ると、今中学生の数が大体3.3万人なんですけど、そこから1万人ぐらい減ると。

この状況を見ると、とても10年先に健全に部活ができる状況ではないということで、教育長の先導の下、やはり在り方を変えていかなきゃいけないということで、地域でいろいろ教えられる

人とかが手を挙げて、そういったところに子供たちをしっかりと——いろんな運動できる場をつくっていかうということで、そのK O B E ◆ K A T S Uに参加したいろんな団体さんは学校の施設を無料で使えるという、こういうインセンティブを与えているいろいろつくっていかうということで始まっています。

今1次募集をしてるんですけど、まだまだ募集状況——これからもしていくということなんです。川西のほうでも先行してちょっとずつやっています。

K O B E ◆ K A T S Uの目的というのは、今募集してもカポエラとか、e ゲームとか、いろんな活動が応募ありまして、子供たちが今までやったらバレー入りたい、でもこの中学校バレーないとか、いろいろ狭まってる選択を広げていきたいという趣旨でやっているのです、その辺は議会も一応了として今進めているところです。

ただ、おっしゃるように課題もいろいろありまして、これは——じゃあバレーは全学校にできるかという、今もない状況でして、それができるかというとなかなかこれからも難しいと。そうすると移動が——今までなら自分の学校でしか部活できなかったのが、隣の中学校でも選べるので移動の距離が長くなるかもしれないと。それに関してどうしていくかという課題があったり、あと経済的な支援——これからやっぱり有料になって月3,000円とかなりますので、そういった支援をどうしていくのかというのは議会でもいろいろ今けんけんがくがくやっているところで、来年の9月に始まるまでには何とかこういった課題をしっかり解決していけるように取り組んでいきたいと思っています。

また、質問の中で、王子公園とかでも公園を潰して、もっとそんなことせずに子育てに向けて公園充実しろって、動物園もしっかり整備しろという声もいただいたんですけども、まさに動物園、今の状況では全然駄目にして、動物虐待みたいな状況になってますので、早急に改修が必要であるとか、あと神戸は緑地とか緑は全国的に見ても非常にボリュームがたくさんありまして、今もちょっとずつ緑の量は増えていっているという状況ですので、そのあたりも少し御理解いただけたらと思います。

以上です。

○理事（吉田謙治） それでは最後になりますけれども、SNS——ソーシャル・ネットワーク・サービスに関する御意見をいただいております。これも委員会のほうでは議論いたしておりますけれども、副委員長の大井議員から回答させていただきます。お願いいたします。

○副委員長（大井としひろ） 今回の御質問、誠にありがとうございます。

SNSの持つ可能性と課題の両面を的確に御指摘いただきました。また、未来都市創造に関する特別委員会における情報発信の在り方について深い御示唆を賜りましたことに心より感謝を申し上げたいと思います。

御指摘のとおり、現代社会においてSNSは個人が率直な意見や感想を表現する場であると同時に、行政や企業、組織が市民と双方向のコミュニケーションを行う大変重要なツールとなっております。私としても、これからのまちづくりにおいて、SNSの活用が1つの鍵になると考えております。

現在のところ、当委員会として公式なSNSアカウントは運用しておりませんが、神戸市が既に活用しているX——旧ツイッターやフェイスブックなどの情報発信事例を参考にしつつ、市民との対話の機会を広げる手段の1つとしてSNSの可能性について研究・検討を進めているところでございます。

また、御指摘の中で触れていただきましたとおり、SNSの利用には誹謗中傷や情報の誤認・拡散、プライバシー侵害といったリスクも伴います。

そのため、もし今後特別委員会としての情報発信にSNSを活用する場合には、発信内容の正確性、個人情報の保護、そしてサイバーセキュリティ対策を徹底した上で安心・安全な運用体制を整えることが大前提と考えております。

さらに、神戸市議会には広報委員会が設置されており、議会の活動や議決内容を市民の皆様に分かりやすくお伝えする取組が進められております。

今後未来都市創造に関する特別委員会での取組などを広報委員会と連携しながら紹介することも、広く市民の御理解と御協力を得る上で重要になると考えております。広報委員会におけるSNSや広報紙、市議会ホームページ等の活用状況についてもしっかりと情報共有を図ってまいりたいと思います。

SNSは誤った使い方をすれば、トラブルの原因にもなり得ますが、適切に活用すれば市民の声を拾い、行政の透明性を高め、共に未来をつくるための有力なツールとなり得ます。今後とも市民の皆様の声に誠実に耳を傾けながら、情報発信の手段や内容についても不断に見直し、時代に即した手法を取り入れ、開かれた議会を開かれたまちづくりの実現を目指してまいります。

貴重な御質問を賜りましたことに改めて御礼を申し上げます。

以上です。

○理事（吉田謙治） 御質問また御意見をいただきまして大変ありがとうございました。

時間の関係上、誠に恐縮でございますけれども、これで御質問に対する回答を終えさせていただきたいと思います。

今日、主に私どもの活動の御報告をさせていただきました。お手元にアンケート用紙をお配りをいたしております。今日お聞きになってお感じになったこと、またあるいはどういうことなのかなということで報告書の内容についての御疑問等々があるかと思っておりますので、そういった点ございましたらアンケートのほうに御記入をいただきまして、またできるだけ御回答申し上げてまいりたいと思います。

ということで、最後に大井副委員長のほうから御挨拶を申し上げたいと思います。お願いします。

○副委員長（大井としひろ） 皆様、本日は御多忙の中、未来都市創造に関する特別委員会、市民報告会に御参加をいただきまして本当にありがとうございました。

本日の報告会では、令和6年度のテーマであります「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」について、私たち特別委員会が行ってまいりました議論の様子や現地視察の内容を市民の皆様にご報告をさせていただきました。

私たちのまち神戸が将来世代にとっても魅力的で、安心して子育てができる都市であり続けるためには、行政や議会だけではなく、地域で暮らす皆様お1人お1人の声や思いが欠かせません。今日いただいた御意見や御感想は、今後の政策提言の中でしっかりと生かしてまいりたいと思っております。また、このような対話の機会を継続し、共に未来を描く場を広げていきたいと考えております。

本日お集まりいただきました皆様、そして日頃より神戸市政に御理解と御協力を賜っている全ての方々に心より感謝を申し上げます。

それでは以上をもちまして、未来都市創造に関する特別委員会、市民報告会を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。

○**理事**（吉田謙治）　ありがとうございました。

これをもちまして未来都市創造に関する特別委員会の報告会を終了させていただきます。遅い時間まで御参加をいただきまして本当にありがとうございました。

（午後 7 時28分閉会）